**技術翻訳専門講座　医薬コース（英訳）　サンプル課題**

次の和文を英訳し、MS-Word形式ファイルで事務局答案係に提出してください。

**課題１**

高血圧患者の検査

高血圧患者の診察はまず詳細な問診から始まり、血圧測定や聴診・触診などの診察、肥満の判定が行われる。続いて、血圧・尿検査の他、胸部X線検査、心電図検査、眼底検査などが行われる。この時点で、血圧が低めで、合併症のないことが確認されれば、生活習慣修正の指導が行われる。

しかし、血圧がかなり高く合併症の疑いもあれば、その内容に応じた精密検査が行われることになる。これには、家庭血圧測定や24時間自由行動下血圧測定（ABPM）を含む血圧レベルの評価に加えて、新たなリスクとして最近注目されているメタボリックシンドロームやCKDに関連する因子と臓器障害（脳血管障害、心臓障害、腎臓疾患、末梢動脈疾患）の評価が含まれる。具体的には、超音波検査、CT検査、MRI検査などが行われる。

なお、このような患者個人の心血管リスクを総合的に評価する検査のほかに、二次性高血圧を疑ってその診断のために行われる検査もある。

（出典元：小室一成『高血圧』（羊土社、2009年）、p.30）

**課題２**

多因子疾患としてのアルツハイマー病－原因遺伝子と危険因子

　近年、認知症患者の人口は増加の一途をたどり、なかでもアルツハイマー病（Alzheimer’s disease : AD）の占める割合は大きく、早急な対策が迫られている。アルツハイマー病は今世紀初頭にドイツの医学者であるAlzheimerが報告して以来、主として臨床的、病理学的、生化学的な研究が行われてきたが、その一義的な病因は不明であった。近年、とくにここ10年間の分子遺伝学の進歩により、これまで明らかでなかったアルツハイマー病の病因に関連した遺伝子が次々と明らかとなり、急速な進歩が認められている。

　アルツハイマー病の大多数は明らかな家族歴のない孤発性アルツハイマー病であるが、少数例ではあるが常染色体優性遺伝を示す家族性アルツハイマー病（familial AD : FAD）が存在する。またこれらはそれぞれ発症年齢で65歳を境に（欧米では60歳を境とすることも多い）早発型と晩発型とに分類されている。アルツハイマー病の病因と関連した遺伝子は単一ではなく、複数の遺伝子が明らかとなっている。

（出典：井原康夫　編『アルツハイマー病の新しい展開』（羊土社、1999年）、p.34）